

3) 補論：

演習時の看護・介護学生の模擬患者経験と男性看護職・男性介護職に対する偏見の実態

北林司（群馬パース学園短期大学）

はじめに

これまでの先行研究を見ると、女性が圧倒的多数を占める看護職には、男性の参入を阻む要因が散見される。たとえば、①男性看護職は「物理的力」「機械類の取り扱い」といった役割が与えられることが多く、女性看護職と同一でない。②女性患者にケア提供を拒否されるなど、女性患者に対するケアに限界がある。③給与の面で魅力が乏しい、などのものである¹⁾。さらに、男性看護職は看護学生時代に、清拭などの羞恥心を伴うような演習の際に模擬患者に指名されることが多いとの声も聞かれ、教育の場における女子学生との差異が示唆される。海外に眼を転じてみると、看護に参入する男性に対して「同性愛者」「医師になれなかった人」「変わり者」といった偏見が、男性の参入を阻んでいるとの報告がある²⁾。しかし、その一方では、家父長制の文化を背景に、男性であることによって職業上のさまざまな有利を得ているとの指摘もみられる³⁾。

わが国の先行研究ではまだまだ未解明の部分が多いが、ここ数年の研究成果によって看護に参入する男性をめぐる問題が量的、質的に徐々に明らかにされつつある^{4) 5) 6)}。

男性介護職に関しては、看護職以上に先行研究が乏しい状況にあり、男性介護職をめぐる問題の解明はこれからである。

本質問項目による調査の目的は、これまで着手されていなかった1. 看護および介護教育期間における羞恥心を伴う演習・実験などの模擬患者・被験者経験、2. 男性看護職および男性介護職に対する社会の偏見について明らかにすることにある。

1. 看護および介護教育期間における羞恥心を伴う演習の模擬患者・被験者経験

1) 看護職の場合

男性看護職では、「ある」が40名(18.5%)、「ない」が166名(76.9%)、無回答6名(2.8%)であった。女性看護職では、「ある」が89名(21.5%)、「ない」が287名(69.3%)、無回答38名(9.2%)であった。

「ある」との回答が多かったのは、男女ともに「清拭」「水着を着用した入浴」「ベット上排泄のための差し込み便器使用法」などであった。数字の上からは男女に差は認められないが、記述の内容では男女に差異が認められた。代表的な記述を以下に示す。

女性看護職 41歳

女子学生同士で清拭を行った。下着を着けていたが、クラスメート同士とはいえ恥ずかしかった。

男性看護職 24歳

清拭演習の時、多くの生徒の前でパンツ1枚の模擬患者になった。男性ということで強引に了解させら

れたが恥ずかしかった。

男性看護職 29歳

学生時代、清拭やその他、何かと患者体験を代表してさせられた。女性ではできないこともあるため、進んで自分からやるようになっていった。

「清拭」の演習では人形を用いたり、学生自身が模擬患者となって授業を進めるのが一般的である。しかし女子学生の場合は同性同士の演習であったのに対して、男子学生の場合は女子学生も参加した演習であった。この点が男女の差異と考えるが、演習の際に学生のプライバシーを保護するためにどのような配慮がなされたのかは不明であった。

2) 介護職の場合

男性介護職では、「ある」が21名(11.3%)、「ない」が79名(42.5%)、「無回答」86名(46.2%)であった。女性介護職では、「ある」が33名(11.3%)、「ない」が69名(23.6%)、「無回答」が190名(65%)であった。

「ある」との回答で多かったのは、男女ともに「全身清拭」「オムツをして排尿」「水着を着用した入浴」などであった。介護職の場合は、数字の上でも記述においても男女に差は認められなかった。代表的な記述を以下に示す。

女性介護職 22歳

入浴介助の演習のときに何人かが水着を着て利用者役になった。友人に洗われるのは恥ずかしかった。オムツを使用し、実際に排尿を行い、すぐに外さず側臥位や仰臥位になり15分以上そのままだった。

男性介護職

大勢の前で水着になって入浴した。オムツを着用して排尿してみるように言われた。

2. 男性看護職および男性介護職に対する偏見

男性看護職および男性介護職に対する偏見についての記述は、男女合わせて看護で87、介護で65の回答が得られた。これらの回答から偏見に関係すると思われる回答を、ひとつの意味内容を含む文に整理し1コードとした。全141コードを質的な方法で分析した結果、9つのカテゴリーと4つのコアカテゴリーが抽出された。これを男性看護職および男性介護職に対する偏見と考えた。以下に各コアカテゴリーを提示し、事例をあげて説明する。

1) 「看護、介護技術能力が乏しい」という偏見

このコアカテゴリーには、「細やかな配慮がたりない(24コード 17%)」、「患者・利用者に威圧感を与える(16コード 11.3%)」、「機械類の取り扱いが得意(13コード 9.2%)」などのカテゴリーが含まれる。(全53コード 37.5%)

看護は長い間女性の適職として社会に認識されてきたという背景をもつ職業である。近年になって登場した介護職も看護職同様の社会的認識があると思われる。このような男性は看護・介護能力が乏しいという偏見は、女性性に基づいて確立した看護・介護の役割を男性が果たすことに対する疑問や違和感などによって生じていると推察される。

男性看護職 51歳

女性の価値観のようなものに当てはめられ、男は駄目だなどいろいろ言われた。

男性看護職 25歳

職場で同期の女性看護師より看護技術等のレベルが低いと思われている。

男性看護職 22歳

他のスタッフと同様に看護していても、乱暴にしているように思われることがある。

女性看護職 51歳

医師の中には男性が看護をすることに対して否定的なひとがいる。

女性看護職 55歳

当院では優秀な男性看護師がいなかったため、院長の考えで男性看護師は採用しない方針になっている。

女性介護職 54歳

男性介護士は掃除、後片付けが苦手である。

女性介護職 53歳

男性介護士は力任せに動かして利用者に苦痛を与えることが多い。

2) 「同性愛者、変人」という偏見

このコアカテゴリーには、「ホモセクシャル (9 コード 6.4%)」、「変わり者 (8 コード 5.7%)」などのカテゴリーが含まれる。(全 17 コード 12%)

わが国の男性看護職の歴史を振り返ると、当初男性看護職は男性性を求められる軍隊や精神科病棟などの需要により職業として成立し今日に至っている⁷⁾。それにもかかわらず、「同性愛者」といった偏見が存在する背景には、前述の女性性に基づく役割期待が影響を及ぼしていると考えられる。また「変人」といった偏見は、好んで女性的職業に参入するという価値観が理解できないことから生じていると推察される。

男性看護職 43歳

過去に看護職であることで隣近所、友人などから奇異の目で見られたことがありました。

男性看護職 24歳

患者様から驚きと奇異な目で見られたことがある。

男性看護職 39 歳

同僚に「ホモセクシャルの人たちだ」と言われた。

女性看護職 34 歳

男性看護師を「変わり者」扱いする女性看護師が多い。

3) 「他の職業につけなかった人」という偏見

このコアカテゴリーには、「看護・介護は男のする仕事ではない (31 コード 22%)」、「なぜ他の仕事につけなかったのか (19 コード 13.5%)」などのカテゴリーが含まれる。(全 50 コード 35.5%)

瀧川らは質問紙調査によって、男性看護師が看護に参入した動機を明らかにした⁸⁾。それによると、女性は看護にまつわるイメージで看護職を志した者が多いのに対して、男性は看護の役割や職務内容にやりがいを見出して進路を決定した者が多く、「他の職業につけなかった人」といった偏見は、男性看護職・男性介護職の認識と距離があると推察される。

男性看護職 46 歳

「男のくせに・・・日本男児たるもの、女のような仕事をしてはいかん」と患者に言われたことがある。

男性看護職 33 歳

学生時代の実習のときに「男がする仕事じゃない。どうして他の仕事につけなかったの。なぜかわしい」と患者に言われた。

男性介護職 42 歳

利用者やその家族から「なんでこの仕事しているの」と質問されることが多い。

男性介護職 33 歳

この仕事に就くときに父親に反対されたが、今では自分自身も女性的色あいが濃い業種だと強く感じており、自らの偏見に悩んでいる。

4) 「女性職において男性は優遇される」という偏見

このコアカテゴリーは、「男なのだから〇〇すべき (15 コード 10.6%)」、「男性は昇進が早い (6 コード 4.3%)」などのカテゴリーを含む。(全 21 コード 14.9%)

これまでのマイナスイメージの偏見とは異なり、女性職に参入する男性看護職・男性介護職にはプラスイメージの見方があることが確認された。

男性看護職 49歳

とにかく男性というだけで、何でもリーダー的立場に立たされる。

女性看護職 49歳

上司が〇〇さんは早く主任や係長へ昇進させたいと言う。根拠がないのに男性は能力が優れているかのように言う。

男性介護職 38歳

利用者から掃除・洗濯・買い物などは「そんなことは男性にお願いできない」と言われる。

女性介護職 29歳

男性は力仕事や車の運転をする分、おむつ交換や清拭などの仕事をしないことになっている。まったく別の職種のような気がする。

女性介護職 25歳

男性のほうがショート担当や機能訓練担当など、特別な職務に就き、そのための資格取得の研修に多く参加させてもらい昇進が早いような気が……

これらの記述は、その男性性によって男性看護職・男性介護職が優遇されていることを示唆するものである。これは男性に高い価値を置くという家父長制のなごりと思われるが、実際に男性看護職・男性介護職のキャリアアップに結びついているかどうかは不明である。

まとめ

このような男女の看護・介護学生の羞恥心や不快感を伴う模擬患者・被験者経験、男性看護職・男性介護職に対する偏見を明らかにする調査はわが国では最初の試みである。

わが国では近年、雇用の分野における女性の保護を目的として、男女雇用機会均等法やセクハラ防止法などが施行され、法律の下での男女平等の理念が具体的に実施されている。看護界でも看護教育における男女の区別が撤廃されるなどの変化があった。しかし日本国内の男性看護職に関する文献を見ると、必ずしも男女平等の理念が浸透しているとは言えない。専門職化を目指す看護職にとっては、性役割と看護の役割の重複は好ましくなく、他の専門職と同様に性役割とは距離をおき、性差によって職務内容に差異が生じないことを促進すべきであろう。

本研究の結果は、男女で構成する看護・介護を取り巻くジェンダーの問題を明らかにし、性差による教育上、職務上の差異を是正することに役立つ。

本研究では以下の新知見を得た。

①看護職・介護職教育の演習において、模擬患者の役割は羞恥心を伴う。また看護職においては、男子学生が模擬患者を命ぜられることが多い。

②男性看護職・男性介護職に対して「看護・介護技術能力が乏しい」「同性愛者、変人」「他の職業につけなかった人」「女性職において男性は優遇される」などの偏見がある。

文 献

1. 百田武司、鈴木正子：男子看護者の抱える問題. 看護学雑誌 1998 ; 3 ; 280-283
2. Williams C. : Gender Differences at Work. Women and Men in Nontraditional Occupations. New York: University of California Press, 1989:103-104
3. Evans J : Men in nursing, issues of gender segregation and hidden advantage. Journal of Advanced Nursing 1997;26:226-231
4. 瀧川薫,草刈淳子,川口孝泰：大学病院に勤務する看護師の実態調査—職務の現状と看護職選択の経緯—. 病院管理 1994 ; 1 : 41-49
5. 波多野梗子,小野寺杜紀：看護師の就業と男子看護学生の教育の現状—K 県の実態調査を通して—. 看護展望 1992 ; 3 : 45-55
6. 山本善博,山野祐二,高田裕治,後藤稔：K 大学病院に勤務する看護師の職務意識とストレスとの関係—聞き取りアンケートによる実態調査より—. 日本看護研究学会雑誌 1998 ; 3 : 189
7. 山崎祐二：近代看護史のなかの男性看護者(1)明治初年～10年代の陸軍と博愛社。日本赤十字社武蔵野短期大学紀要 1997 ; 8 : 103-112

E. 結論

ここまでに行ってきた考察において、以下のようなことが明らかとなった。

1) 看護・介護職をめぐる現状と展望

職業参入過程において、①看護・介護系学校進学理由における男女間の差異が確認された。②職業選択理由における、女性看護・介護職の資格による自立志向が確認された。③他職種就業経験に関する女性看護職の特異性が確認された。

現状の課題について、①男性看護・介護職における患者からの看護拒否の経験の高さが確認された。②看護職においては、男性がより患者からの暴力を受ける確率が高いことが確認された。③女性看護・介護職における患者・利用者からのセクシュアルハラスメントの経験の多さが確認された。④因子分析により、看護・介護職ともに職場の満足度に関する四つの因子（人間関係因子、報酬因子、労働時間因子、職務内容因子）が抽出された。⑤また、家庭領域においては、看護・介護職ともに女性に偏った家事分担状況が確認された。

将来への不安と展望に関しては、①女性において、年齢階層が低いほど仕事の継続意志が低くなることが確認された。②不安内容として、男性では収入が、女性では体力が大きな割合を占めていることが確認された。

2) 看護・介護職における男女共同参画へ向けて

①地位の規定要因として、判別分析の結果、看護職では経験年数が最大の規定因であり、続いて看護師資格を有すること、現在の勤務先の勤務年数が長いこと、男性で

あることが職業的地位の高さに影響を及ぼしており、介護職では経験年数が最大の規定因であり、続いて現在の勤務先の勤務年数が長いことが職業的地位の高さに影響を及ぼしていることが確認された。

②収入の規定要因として、重回帰分析の結果、看護職における年収が「看護職経験年数」が長いこと、「看護師資格」があること、「現在の勤務先勤務年数」が長いこと、「性別」が男性であることと正の関係があること、介護職における年収が「介護職経験年数」が長いこと、「現在の勤務先勤務年数」が長いこと、「性別」が男性であることと正の関係があるが、「介護福祉士資格」の有無とは有意な関係がないと確認された。

③男女共同参画意識について、男性看護・介護職者は他の職業に従事する男性に比べ、性別役割分業意識が低いことが確認された。

④男女看護・介護職いずれにおいても、当該職業における男性の割合が増えるのが望ましいと考える者が過半数であった。

3) 補論：演習時の看護・介護学生 of 模擬患者経験と男性看護職・男性介護職に対する偏見の実態

①看護職・介護職教育の演習において、模擬患者の役割は羞恥心を伴う。また看護職においては、男子学生が模擬患者を命ぜられることが多い。

②男性看護職・男性介護職に対して「看護・介護技術能力が乏しい」「同性愛者、変人」「他の職業につけなかった人」「女性職において男性は優遇される」などの偏見がある。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1) 論文発表

矢原隆行 2002年11月「男性看護職をめぐる課題と戦略—その隘路と可能性について—」『看護学雑誌』 Vol.66 No.11 p.1006-1011.

矢原隆行、床島正志、北林司、仲本勉、山田正己、2002年11月、「特集＝女性看護師の皆さんへ 座談会：男が看護する意味」

『看護学雑誌』 Vol. 66 No. 11 p. 998-1005.

2) 学会発表

矢原隆行 2002年5月「職業・性・感情」第28回日本保健医療社会学会大会(於日本赤十字看護大学)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

研究協力者

北林司 (群馬パース学園短期大学)

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍 なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
矢原隆行	「男性看護職をめぐる課題と戦略ーその隘路と可能性についてー」	看護学雑誌	Vol.66 No.11	p.1006 - 1011.	2002
矢原隆行、 床島正志、 北林司、仲 本勉、山田 正己	「特集＝女性看護師の皆さんへ 座談会：男が看護する意味」	看護学雑誌	Vol.66 No.11	p.998 - 1005.	2002

Ⅲ. 研究成果の刊行・別刷

20021323

以降 資料:「看護・介護職者の意識と現状に関する調査」調査票の前頁
までは雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
P107「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください

資料：「看護・介護職者の意識と現状に関する調査」調査票

看護・介護職者の意識と現状に関する調査

2003年1月実施

調査実施者 「ケアとジェンダー」研究会

調査責任者 矢原隆行（福山市立女子短期大学）

調査協力をお願い

本格的な少子高齢社会を迎え、現在さまざまな領域でケアの重要性が高まっています。職業としての看護・介護職が社会において担う役割も、今後ますます大きくなることが予想されます。

「ケアとジェンダー」研究会では、厚生労働省より平成14年度厚生科学研究費補助金を受け、医療技術評価総合研究事業として、「看護・介護職における男女共同参画の課題と可能性」（主任研究者：矢原隆行）について研究を行っています。このたび、研究事業の一環として、全国の看護・介護職の方々の職業をめぐる意識と現状について調査をおこなうこととなりました。ご多忙中とは存じますが、看護・介護職の現状について正確に把握するため、ぜひ率直なご意見をお聞かせいただけますようお願いいたします。

今回、調査にご協力をお願いする皆様は、全国の看護・介護職者から無作為に選ばれた方々です。お答えいただきました内容は、すべて数字におきかえて統計的に処理いたしますので、個人のお名前や所属機関名が漏れたり、公表されることは決してありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、かならず**2003年1月末日まで**にご投函下さい。

この調査に関して、ご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

〒720-0074 広島県福山市北本庄4-5-2

福山市立女子短期大学

電話：084-925-2511/FAX：084-925-2513

矢原隆行（やはらたかゆき）

調査ご記入にあたってのお願い

*質問には、他の方とご相談なさらず、ご本人のお考えをお答え下さい。

*選択式の質問に関しましては、あてはまる番号に○をつけてください。

*記入式の質問、および選択式の「その他」の項目の（ ）内には具体的な言葉や数字を書き込んで下さい。

*特にお答えになりたくない質問については、無理にお答えいただかなくても構いません。

【看護職用】

まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

Q1. あなたがお生まれになったのは、何年何月ですか。

19____年____月

Q2. あなたの性別は、次のどちらですか。(○はひとつだけ)

1. 男性 2. 女性

Q3. 次の項目について、あなたご自身は現在いずれにあてはまりますか。(○はひとつだけ)

1. 未婚 2. 既婚 3. 離婚又は死別

Q3-1. Q3で「2. 既婚」とお答えの方のみに伺います。

あなたとあなたの配偶者は現在いずれにあてはまりますか。(○はひとつだけ)

1. 夫婦ともフルタイムで働いている
2. 自分はフルタイムで、配偶者はパートタイム
3. 自分はフルタイムで、配偶者は働いていない
4. その他 ()

Q3-2. Q3で「2. 既婚」とお答えの方のみに伺います。

掃除、洗濯、食事の準備等の家事および育児全般について、あなたのお宅では現在どのようになさっていますか。(○はひとつだけ)

1. ほとんどの家事を自分が行っている
2. 比較的多くの家事を自分が行っている
3. 自分と配偶者で平等に家事を分担している
4. 比較的多くの家事を配偶者が行っている
5. ほとんどの家事を配偶者が行っている
6. その他 ()

Q4. お子さんは何人いらっしゃいますか。(いない場合は0とお書き下さい)

() 人

Q5. あなたの一般最終学歴（在学中および中退は含めず）についてお教え下さい。
（○はひとつだけ）

1. 義務教育
2. 新制高校（高校衛生看護科も含む）、旧制中学・女学校
3. 短期大学（看護系短大を含む）、新制高専
4. 大学、大学院（看護系大学、大学院を含む）、旧制高専

Q6. あなたの専門最終学歴（在学中および中退は含めず）についてお教え下さい。
（○はひとつだけ）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 准看護婦学校 | 2. 高校衛生看護科 |
| 3. 看護学校（進学コース） | 4. 高校専攻科（進学コース） |
| 5. 看護短大（進学コース） | 6. 高等看護学校（3年課程） |
| 7. 看護短大（3年課程） | 8. 保健婦学校（短大専攻科含む） |
| 9. 助産婦学校（短大専攻科含む） | 10. 保健婦助産婦学校（専門学校） |
| 11. 看護系大学 | 12. 看護系大学院 |
| 13. 旧教育制度の学校 | |

Q7. あなたが今お持ちの資格（現在のお仕事に関わるもの）は何ですか。お持ちの資格すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | | | |
|-----------------|----------------|----------------|--------|
| 1. 准看護師 | 2. 看護師 | 3. 保健師 | 4. 助産師 |
| 5. 介護福祉士 | 6. 社会福祉士 | 7. 保育士 | 8. 栄養士 |
| 9. ホーム・ヘルパー1級 | 10. ホーム・ヘルパー2級 | 11. ホーム・ヘルパー3級 | |
| 12. ケアマネジャー | 13. 歯科衛生士 | 14. 社会福祉主事 | |
| 15. 臨床検査技師 | 16. 精神保健福祉士 | 17. 救急救命士 | |
| 18. 臨床工学技士 | 19. 理学療法士 | 20. 作業療法士 | |
| 21. 住環境コーディネーター | 22. とくに資格はない | | |
| 23. その他（具体的に | | | ） |

Q8. あなたの看護職としての通算経験年数は満何年になりますか。
満（ ）年

Q9. 現在のお勤め先は、勤続満何年になりますか。
満（ ）年

Q10. あなたの現在の職位は何ですか。(○はひとつだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 看護部長 (総師長) | 2. 副看護部長 (副総師長) |
| 3. 師長 | 4. 副師長 |
| 5. 主任 | 6. 副主任 |
| 7. 看護師 | 8. 准看護師 |
| 9. その他 () | |

Q11. あなたの現在の配置部署はどこですか。(○はひとつだけ)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 精神病棟 | 2. その他の病棟 (具体的に) |
| 3. 外来 | 4. 人工透析 |
| 5. 手術室 | |
| 6. その他 (具体的に) | |

Q12. 現在の配置部署における看護職員の数は男女それぞれ何名ですか。

女性 () 名 男性 () 名

Q13. 看護職の仕事に就かれる以前に、何か別の仕事 (アルバイトは除く) をなさったことがありますか。ある方は、どのような職種の仕事かお書き下さい。

- | | |
|-------|---------------|
| 1. ない | 2. ある (具体的に) |
|-------|---------------|

Q13-1. Q13で「2. ある」とお答えの方のみに伺います。

それまで就かれていた仕事から看護職に転職なさった理由は何ですか。

あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1. 看護の仕事に魅力を感じたため | 2. より良い収入を得るため |
| 3. 以前の職場をリストラされたため | 4. 以前の職場が倒産したため |
| 5. 手に職をつけたかったため | 6. 労働条件が良さそうだったため |
| 7. 人の役に立つ仕事がしたかったため | |
| 8. 周囲の人にすすめられたため (その方との関係) | |
| 9. その他 (具体的に) | |

あなたが看護職に就かれるまでのことについてお伺いします。

Q14. あなたが看護系の学校に進むことを決めたのは、どのようなきっかけからですか。
あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 家族にすすめられた
2. 学校の先生(担任や進路指導の先生など)にすすめられた
3. その他の人にすすめられた(その方との関係)
4. 進路情報(雑誌やインターネット、ポスターなど)を自分で見て興味をもった
5. 身近に看護職の人がいた(その方との関係)
6. 自分が看護を受けた経験から
7. 身近な人が看護を受けた経験から(その方との関係)
8. 病院等でアルバイト、ボランティアなどをした経験から
9. その他(具体的に)

Q15. あなたが看護職という仕事を選ばれた理由はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 子どもの頃からあこがれていたから
2. 人の役に立つ仕事をしたかったから
3. 資格を得て自立したかったから
4. 収入が良さそうだったから
5. 医療職に興味があったから
6. 他に希望する職業があったが、それに就けなかったから
7. その他(具体的に)
8. とくに理由はない

Q16. 看護系学校の学生時代に次のようなことで苦勞なさいましたか。あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 学生同士の人間関係
2. 教員との人間関係
3. 授業についていくこと
4. 看護実習先での対応
5. 学内設備の不十分さ
6. その他(具体的に)
7. とくに苦勞したことはない

Q17. あなたは看護学生時代に、演習や実験などで羞恥心や不快感をともなうような模擬患者・被験者になったことがありますか。ある場合には、どのような演習や実験だったか具体的にお書き下さい。

1. ある

具体的に

2. ない

Q18. 学校卒業後、病院等への就職はどのようにしてなさいましたか。あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 卒業した学校や先生の紹介 | 2. 卒業した学校の先輩の紹介 |
| 3. 友人の紹介 | 4. 家族・親戚の紹介 |
| 5. 求人情報を見て直接応募した | 6. 実習先で誘われた |
| 7. その他(具体的に |) |

あなたが看護職に就かれてからのことについてお伺いします。

Q19. 看護職に就かれてからこれまで、以下の項目についてどの程度苦勞なさいましたか。それぞれあてはまるものに○をしてください。(○は各項目ごとにひとつだけ)

	非常に 苦勞した	やや 苦勞した	あまり苦勞 しなかった	まったく苦勞 しなかった
(1) 同僚との人間関係	1.....	2.....	3.....	4.....
(2) 上司との人間関係	1.....	2.....	3.....	4.....
(3) 部下との人間関係	1.....	2.....	3.....	4.....
(4) 医師との人間関係	1.....	2.....	3.....	4.....
(5) 患者との人間関係	1.....	2.....	3.....	4.....
(6) 仕事に必要な知識や 技術を身につけること	1.....	2.....	3.....	4.....

Q20. あなたが看護職に就かれてからこれまでに、次のようなことを経験なさいましたか。経験があるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 患者から看護を拒否された
2. 患者から暴力を受けた
3. 患者からセクシュアル・ハラスメントを受けた
4. 患者と感情的な対立が生じた
5. 同僚(上司・部下を含む)からセクシュアル・ハラスメントを受けた
6. 同僚(上司・部下を含む)と強い感情的な対立が生じた
7. 医師や他職種の職員からセクシュアル・ハラスメントを受けた
8. 医師や他職種の職員と強い感情的な対立が生じた
9. 精神的ストレスから身体に変調をきたした

Q21. あなたはこれまでに男性看護師に対する何らかの偏見に遭遇したことがありますか。ある方は、その内容について具体的にお書き下さい。

Q22. あなたはこれまで看護職に就かれてから勤務先を変わられたことがありますか。(○はひとつだけ)

1. ある (回) 2. ない

Q22-1. Q22で「1. ある」とお答えの方のみに伺います。

あなたが勤務先を変わられた理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 結婚のため | 2. 出産・育児のため |
| 3. 仕事内容がきつかったため | 4. 家族の転居のため |
| 5. 勤務時間が合わなかったため | 6. 収入が良くなかったため |
| 7. 病気・けがのため | 8. 精神的ストレスのため |
| 9. 知識・技術を磨くため | 10. 雇用者側の都合で |
| 11. 職場の人間関係で | 12. 昇進や昇給が適切でなかったため |
| 13. その他(具体的に |) |

Q23. 現在の職場について、以下の項目について、どの程度満足していますか。

それぞれあてはまるものに○をしてください。(○は各項目ごとにひとつだけ)

	非常に満足	まあ満足	やや不満	非常に不満
(1) 収入	1	2	3	4
(2) 休暇	1	2	3	4
(3) 労働時間	1	2	3	4
(4) 勤務部署	1	2	3	4
(5) 雇用形態	1	2	3	4
(6) 仕事の内容	1	2	3	4
(7) 福利厚生	1	2	3	4
(8) 昇進・昇給	1	2	3	4
(9) 同僚との人間関係	1	2	3	4
(10) 上司との人間関係	1	2	3	4
(11) 部下との人間関係	1	2	3	4
(12) 医師との人間関係	1	2	3	4
(13) 患者との人間関係	1	2	3	4
(14) 研修・教育機会	1	2	3	4

Q24. あなたは看護の仕事をつづけたいと思っていますか。(○はひとつだけ)

1. 就業形態に関わらず、何らかの形で働きつづける
2. 結婚、出産、家族介護といった人生の転機に応じて離職はするが、再就職を試みる
3. 結婚、出産、家族介護といった私生活を優先させ、それを機会に離職する

Q25. 今後、看護職を続けていくうえで不安に感じていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 体力がもつかどうか
2. 精神的ストレスに耐えられるかどうか
3. 新しい知識・技術に追いついていけるかどうか
4. 生活に応じた十分な収入が得られるかどうか
5. 看護職としての雇用が確保され続けるかどうか
6. 看護職として仕事にやりがいを感じ続けられるかどうか
7. その他(具体的に)
8. とくに不安は感じない